

第 61 回社会保険指導者講習会

「脳血管障害診療のエッセンス」

と き 平成 29 年 10 月 4 日・5 日（水・木） 10：00～

ところ 日本医師会大講堂

[印象記：理事 前川 恭子]

脳梗塞はご存知のとおり、神経組織を灌流する血管が閉塞し、虚血により機能が障害された状態である。発症・搬送された患者さんの脳組織の虚血の中心部は、既に細胞死をきたしているであろう。しかし、周辺組織（ペナンプラ）は早期に血

流を再開すれば助けられる。血栓溶解療法と血栓回収療法はそれを目的とする。

アメリカで 1996 年に認可された rt-PA（遺伝子組換え型組織プラスミノゲンアクチベータ）は、

10 月 4 日（水）		CC 単位	10 月 5 日（木）		CC 単位
10:00	開会 挨拶 日本医師会長 厚生労働省保険局長		10:00	脳血管障害の画像診断 平野 照之（杏林大脳卒中医学教授）	CC73 1単位
10:10	脳血管障害の疫学と危険因子 北川 泰久（東海大名誉教授）	CC11 1単位	10:50	質疑応答（10分）	
11:00	質疑応答（10分）		11:00	脳ドックの現状 小林 祥泰（鳥根大特任教授）	CC11 1単位
11:10	脳梗塞の超急性期治療 峰松 一夫（国立循環器病研究センター 院長）	CC73 1単位	11:50	質疑応答（10分）	
12:00	質疑応答（10分） 12:10～12:50 休憩（昼食）		12:00～12:50 休憩（昼食）		
12:50	脳血管障害の血管内治療の進歩 吉村 紳一（兵庫医大脳神経外科 主任教授）	CC73 1単位	12:50	平成 30 年度診療報酬改定に向けて 厚生労働省保険局医療課長 地域医療構想の実現に向けて 厚生労働省医政局長	CC6 1単位
13:40	質疑応答（10分）		13:50	脳血管障害に対するリハビリテーション 水間 正澄（昭和大名誉教授）	
13:50	脳血管障害の外科的治療の現状 寶金 清博（北海道大脳神経外科教授）	CC73 1単位	14:40	質疑応答（10分）	
14:40	質疑応答（10分） 14:50～15:00 休憩（10分）		14:50～15:00 休憩（10分）		
15:00	脳梗塞再発予防のための抗血栓療法と 血圧管理 鈴木 則宏（慶應義塾大神経内科教授）	CC78 1単位	15:00	脳血管障害と医療連携 弓倉 整（弓倉医院院長）	CC12 1単位
15:50	質疑応答（10分）		15:50	質疑応答（10分）	
16:00	心原性脳塞栓症の一次予防、二次予防 磯部 光章（榊原記念病院院長）	CC73 1単位	16:00	総括 日本医師会	CC6 0.5単位
16:50	質疑応答（10分）		16:30	終了	
17:00	終了				

治験のデータはあったものの日本では認可がおりず、J-ACT の結果を待った。2005 年に発症 3 時間以内での使用が日本で認可され、世界では早くも 2008 年に発症 4.5 時間以内の使用を適応とした。遅れて 2012 年、日本でも同様の適応となった。

血栓回収療法は、rt-PA 静注療法に続き発症 6 時間以内に行われ、十分効果があるが、ガイドライン推奨に合う症例は全体の 1 割である。

治療のタイミングを逸する患者さんをより早く搬送できれば、血管内治療の対象となり得る。

アメリカでは啓蒙に FAST を使用する (Face : 顔の歪み、Arm : 腕の脱力、Speech : 言語障害のうち一つでも症状があれば 8 割は脳卒中の可能性が高く、Time : 発症時刻を確認し救急車を要請する)。また、複数医療機関が連携し遠隔医療システムで急性期の診断を行い、rt-PA 静注療法を開始しながら、血栓回収療法可能な施設に搬送する (Drip : 血栓溶解、Ship : 搬送、Retrieve : 血栓回収)。

適応拡大を目論む DAWN trial では、diffusion-perfusion mismatch を評価し症例を選べば、発症 6 時間を過ぎていても 24 時間以内の血栓回収療法は有効と結論付けたが、日本の話ではない。歯痒さと、日本でも何とかしたいという熱意を複数の演者から感じた。

MRI 普及率が世界一である日本での脳ドックは、未破裂脳動脈瘤をみつけることが目的の一つ

であった。その目的をある程度達成した今、脳ドック学会は、無症候性脳血管障害を見つけ、脳卒中や認知症の予防につなげることも目標としている。無症候性脳梗塞や大脳白質病変を有する高齢者は、脳卒中や認知症発症リスクが高いからである。

血栓回収療法で障害が残らず、再発予防として抗血小板療法を行っていても、脳梗塞再発率は高い。脳梗塞を発症させないため、目の前の患者さんの高血圧や代謝異常など、脳梗塞のリスクファクターをコントロールすることが言うまでもなく大切である。

講習会の最後に、中川俊男 日本医師会副会長が、病床機能報告の病床数と地域医療構想の病床必要量は意味合いが全く異なることを分かりやすく説明され、日程を終了した。

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 **井上書店**
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串2丁目3-1(山口大学医学部横)
TEL 0836 (34) 3424 FAX 0836 (34) 3090
[ホームページアドレス] <http://www.mm-inoue.co.jp/mb>.
新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。

かなえない
未来がある。





応援してください。
やまぎんも、私も。

石川 佳純



山口銀行

YAMAGUCHI BANK